

子ども読書支援センターニュース No.155

2017. 4. 30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成29年5月2日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《4月のおはなし会で使った本》

『てんとうむしぱっ』 中川ひろたか/文 奥田高文/写真 ブロンズ新社 2009

『もりのどうぶつ』 おおたけひでひろ/文・写真 福音館書店 2009

『たんたんんとんとん』 仲川道子/脚本・絵 童心社 2004

『おべんとう』 小西英子/さく 福音館書店 2012

『たろうくんのじどうしゃ』 山本忠敬/作・絵 チャイルド本社 2006

★新刊児童書閲覧会

○日時：平成29年5月20日（土）13：30～15：30 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等 ○定員：30名（要申込み・先着順）

○申込方法：平成29年5月17日（水）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

★読書ボランティアリーダー養成講座

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：子ども読書ボランティア、公共図書館職員、学校図書館関係者等

○定員：60名程度（要申込み・先着順） ○申込方法：各開催日の一週間前までに、電話、FAX、Eメールで申込み

○参加費：無料

第1回

○日時：平成29年6月10日（土）13：00～15：00 ○講師：瀬川 嘉氏（フリーアナウンサー）

○内容：「『声』で描くお話の世界」～子どもたちと作る朗読のステージ～ ※希望者参加の交流会（15：10～15：40）

第2回

○日時：平成29年7月8日（土）13：00～15：30 ○講師：北畑 博子氏（科学読物研究会会員）

○内容：「科学の本～知ろう・使おう・遊ぼう」 ○持参物：はさみ、セロテープ

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

＜絵本一乳幼児から＞

『くまさん』 まど・みちお/詩 ましませつこ/絵 こぐま社 2017.2 ¥900

「はるがきて めがさめて くまさん ぼんやり かんがえた さいているのは たんぽぽだが ええと ぼくは だれだっけ だれだっけ …。」春の野山を舞台に、自分が自分である喜びを歌った、まど・みちおの詩「くまさん」。2014年に104歳で永眠した周南市出身のまど・みちおと、山形県育ちの画家ましませつこのコンビによる絵本シリーズの新作。

＜絵本一3, 4歳から＞

『重力って…』 ジェyson・チン/作 竹内薫/訳 偕成社 2017.2 ¥1500

重力って、どういうものなの？ あらゆる科学の基本である重力について、小さな子どもにもわかりやすく説明した科学絵本。遊び心たっぷりの迫力のある美しい絵と、サイエンス作家の竹内薫氏によるシンプルな訳文が楽しい。巻末には少し詳しい重力の説明頁もある。宇宙や地球、月など、天体に興味を持ちはじめた子どもへの読み聞かせにも向く。

＜絵本一5, 6歳から＞

『とのさま1ねんせい』 長野ヒデ子/作・絵 あすなろ書房 2017.3 ¥1300

お勉強よりも遊ぶことが大好きなとのさま。家来たちに「とのさま、もうすぐ1年生です。学校に行く用意をしてください」といわれても、「1年生になんか、なりたくない!」と逃げ出した。でも、「1年生っていいのになあ」と家来たちが話すのを聞いたり、ランドセルや給食袋などの準備が進むのを見るうちに…。1年生になる子どもたちへの読み聞かせに向く絵本。

＜絵本一小学校低学年から＞

『ばあば、だいじょうぶ』 楠章子/作 いしいつとむ/絵 童心社 2016.12 ¥1300

いつもぼくの話の聞いてくれ、「だいじょうぶだよ」と励ましてくれたばあば。ぼくはばあばが大好きだ。でも何度も同じことを聞いたり、編み物がわからなくなったりと、ばあばは昔と変わってしまった。同じ家に住みながら、ぼくはばあばに近づくなくなった。でもある日、ばあばが平方不明になり…。認知症が進む祖母の姿と家族のあり方を幼い孫の視点から描いた絵本。今年の読書感想文課題図書（低学年の部）

<絵本—小学校中学年から>

『ドームがたり』 アーサー・ピナード/作 スズキコージ/画 玉川学園出版部 2017.3 ¥1600

どうも、はじめまして。ぼくの名前は「ドーム」。広島県外の人たちは「原爆ドーム」とぼくを呼ぶけれど、広島の人にはただ「ドーム」というんだ…。原爆ドームを主人公に、ドームの歴史、戦争、原爆体験、そして核実験や原発問題などを語る。日本語で詩や小説を書くアメリカ人作家、アーサー・ピナードによるドームの語りと、スズキコージの絵が強い印象を残す絵本。

<絵本—小学校高学年から>

『みどりの町をつくらう 災害をのりこえて未来をめざす』 アラン・ドラモンド/さく 松村由利子/やく 福音館書店 2017.2 ¥1400

2007年5月4日、アメリカのカンザス州の小さな町グリーンズバーグは、巨大な竜巻に襲われた。竜巻で町はめちゃくちゃになったけど、みんなはあきらめず、未来をめざして町の再建に取り組んだ。そして自然の恵みを活かした町づくりによって、グリーンズバーグは「みどりの町」として蘇った…。自然災害と復興、自然との調和などについて、実話をもとに描かれた絵本。

<読み物—小学校低学年から>

『たんけんクラブ シークレット・スリー』 ミルドレッド・マイリック/ぶん アーノルド・ローベル/え 小宮由/やく 大日本図書 2017.3 ¥1400

ビリとマークが海岸で拾ったビンの中には、暗号の手紙が。解読すると、トムという会ったこともない子が、一緒に探検クラブを作ろうという。誘いにのったビリとマークは返事を書き、再びビンを海に流すことに。果たして3人は探検クラブを結成することができるか…。作者は本作で1963年に作家デビュー。絵本から読み物に移行する時期にぴったりな幼年童話。

<読み物—小学校中学年から>

『犬とおばあさんのちえくらべ 動物たちの9つのお話』 アニー・M.G. シュミット/作 西村由美/訳 たちもとみちこ/絵 徳間書店 2017.3 ¥1400

おばあさんと、飼い犬のトムは、暖炉のそばの椅子が大のお気に入り。いつも二人は椅子の取り合いに。どうすればその椅子に座れるか、二人は知恵を絞る。さて、軍曹は…? 国際アンデルセン賞受賞のオランダの国民的作家による動物たちのゆかいなお話。表題作を含めた9編の短編集。数々出てくるだじゃれ風日本語訳が、お話の面白さを引き立たせる作品。

<読み物—小学校高学年から>

『チキン!』 いたうみく/作 こがしわかおり/絵 文研出版 2016.11 ¥1300

僕の名前は日色拓。名前はヒーローでも、実はあらゆるトラブルを避けたい気の弱い「チキン」だ。そんな僕のクラスに小6の春にやってきた転校生の真中凛さん。言いたいことははっきりと言う、僕と真逆なタイプですっかりクラスで浮いた存在に。できるだけ関わりたいわけではないけど…。人間関係で悩む子どものリアルな気持ちや行動を理解することができる作品。

<読み物—中学生から>

『僕が上手にしゃべれない』 椎野直弥/著 ポプラ社 2017.2 ¥1500

入学式の日、悠太はクラスでの自己紹介の直前に保健室に逃げ込んだ。こうやって僕は逃げ続けるのか、と葛藤する悠太の目に「上手に声を出せる」という放送部のチラシの文字が飛び込んだ。直す方法もなく、障害にも認定されていない吃音症に苦しむ少年の葛藤を、著者自身の経験をもとにリアルに描いたデビュー作。「teens' best selections」シリーズ。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『うみのかくれんぼ』 (全3巻) 武田正倫/監修 金の星社 2017.2 ¥2500

海にすむ動物は姿を隠す名人。岩や海草にそっくりだったり、色をかえたり、穴にもぐったり。反対に「食べるとまずいぞ」とばかりに、派手な色で身を守るものも。隠れる理由や隠れ方、生き物同士の関わり合いや生態についても詳しく解説。『もぐってかくれる』(第1巻) 『いろをかえてかくれる』(第2巻) 『かたちをかえてかくれる』(第3巻)

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『いのちのひろがり』 中村桂子/文 松岡達英/絵 福音館書店 2017.3 ¥1300

台所の調理台に這い回るアリも、庭に集まるチョウもカエルもみんな「わたしの仲間」。どうしてかって? 生き物のすべての祖先をたどると、38億年前に地球にはじめて生まれた「細胞」につながるからよ。これが少しずつ進化して今の「わたし」がいるんだからね。生物誌研究者である著者による、命に対する敬意と愛情にあふれる作品。月刊『たぐさんのふしぎ』から生まれた本。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『海外で学んでどういうこと?』 横山匡/監修 くもん出版 2017.3 ¥2800

人生を考える時、日本地図でなく世界地図を思い描いたら、君の選択肢は大きく広がるよ。日本をとびだして自分の「好き」を見つけた7人の先輩たちの留学の様子を紹介。「どんな留学ができるの?」のコラムで、小中学生ができる留学も紹介。「はばだけ! 留学で広がる未来」シリーズ。他に『学びをいかにして海外ではたらく』『学んだことを日本でいかに』

<ノンフィクション—中学生から>

『11歳からの正しく怖がるインターネット 大人もネットで失敗しなくなる本』 小木曾健/著 晶文社 2017.2 ¥1300

ネット利用に関する講演活動や教材作成を行っている著者が、講演の内容を元に、「ネットの正体」、「ネットで絶対失敗しない方法」を日本中の人に伝え、誰もネットで失敗しない社会を目指そうと訴える。万が一、炎上してしまったときの対応は? SNSは現代の伝言板!? 教員や保護者、子どもたちからの相談の事例を取り上げ、イラストや写真を使って具体的にわかりやすく語る。

<研究書>

『松居直と絵本づくり』 藤本朝巳/著 教文館 2017.1 ¥1800

1999年から17年間、著者が松居直から聞き取った生い立ち、福音館書店入社経緯、『母の友』創刊、そして松居直が直接編集に関わった「こどものとも」創刊から149号までの詳しい話をもとに、一人の類いまれな編集者の仕事内容とその意義を明らかにした。ポイントとなる作品や作者を取り上げ、編集者としての姿を浮き彫りにする。インタビューや対談も収録。

